

東海生研 ～ メールマガジン 第166号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (11月28日)
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海 (平成31年1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆ シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」
(10月22日)
- ☆ 平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(10月)」 (10月30日)
- ☆ 野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」
(10月29日～30日)
- ☆ 農研機構野菜花き研究部門野菜研究安濃拠点一般公開 (11月3日)
- ☆ 愛知県農業総合試験場公開デー (11月3日)
- ☆ 平成30年度東海地域マッチングフォーラム (11月15日)
～土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～
- ☆ 植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月16日)
- ☆ 静岡県農林技術研究所公開デー (11月17日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 (東京ビッグサイト) (11月20日～22日)
- ☆ 農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆ 平成31年度 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (JST)
- ☆ 平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
企業主導フェーズ: NexTEP - Aタイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)
未来創造ベンチャータイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆ 平成30年度 ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)
(総務省)
- ☆ 平成31年度 環境研究総合推進費 (独立行政法人・環境再生保全機構)
- ☆ 平成31年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆ 民間の競争的研究資金

○ 5. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー

【開催日時】平成30年10月31日(水) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1201会議室

【テーマ】「新たな農業技術の展開 ～植物工場とICT & IoT技術～」

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2195>

【内容】

挨拶

セッション1 農業現場におけるICT & IoT技術の展開

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| (1)スマート農業の推進について | 13:40～14:10 |
| 農林水産省大臣官房政策課技術政策室 課長補佐 | 大熊 武氏 |
| (2)トヨタ自動車(株)の「豊作計画」 | 14:10～14:40 |
| トヨタ バイオ緑化研究所 | 高木 徹氏 |
| (3)クボタのスマート農業への取り組み | 14:40～15:10 |
| ～各種農業機械とICTを連動させ農作業の効率を向上させる～ | |
| 株式会社クボタ 特別技術顧問 工学博士 | 飯田 聡氏 |

休憩

セッション2 植物工場拠点の展開

- | | |
|------------------------------|-------------|
| (1)太陽光利用型植物工場で得られた研究成果と今後の課題 | 15:20～16:10 |
| 三重県農業研究所 野菜園芸研究課長 | 原 正之氏 |
| (2)人工光型植物工場で得られた研究成果と今後の課題 | 16:10～17:00 |
| 千葉大学大学院園芸学研究科 | 丸尾 達氏 |

【参加申込】参加費無料、

【交流会】17:10～18:30 会場：セミナー会場と同じ 参加費：2,500円(事前申し込み)

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの開催について

去る9月4日に開催予定でしたが、台風21号の接近のため中止しました第2回セミナーを下記の通り改めて開催することにしましたので、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【開催日時】平成30年11月28日(水) 13:00～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1003会議室
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 Tel 052-571-6131)

【開催案内】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2179>

【アクセス】・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

○林産部会 13:00～13:45

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○水産部会 13:45～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○食品部会 14:30～15:15

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の
開発」 岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

（休憩）

○作物部会 15:30～16:15

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」等のナシ品種育成の現状」

農研機構果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 16:15～17:00

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モータークリニック 院長 大久保幸弘 氏

『技術相談』のある方は受付のみさせていただきます 後日、対応させていただきます。

*情報交流会 17:15～18:45（同じ会場 1003）

会費 2,500 円（事前申し込みが必要）

【参集範囲】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・
食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、
国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、
その他

【参加費】 無料

【参加申込】 上記の「開催案内」の URL から「参加申込書」を取り出し、必要事項をご
記入の上、ファックス又は電子メールでお送り下さい。

☆アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海

【開催日時】 平成31年1月29日10:00～30日16:00

【開催場所】 ウィンクあいち 6階展示場

【開催概要】 開会式（29日）

研究発表（29日午前 研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果予定）

ブース展示（29日～30日予定）

企画展示(1)いちごマッチングフォーラム in 東海

企画展示(2) 東海・近畿地域の農林水産物加工品の展示

ポスター発表

相談コーナー (29日 16:00～17:00) 農水省コーディネーターが対応

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」

【開催日時】平成30年10月22日(月曜日) 13時30分～17時35分

【開催場所】明治安田生命名古屋ビル16階大ホール(愛知県名古屋市中区新栄町1-1)

【内容】

(1) 開会挨拶 東海農政局長 幸田 淳 氏

(2) 基調講演

・「Society5.0を構成する農業・食品分野の革新への取組み」

農研機構 理事(産学官連携担当) 折戸 文夫 氏

・「日本農業の新たな潮流～アグリビジネスの台頭、スマート農業の実用化～(予定)」

株式会社日本総合研究所創発戦略センター エクスペート(農学) 三輪 泰史 氏

・「甘くない企業参入とスマート農業」株式会社日本経済新聞社 編集委員 吉田 忠則 氏

(3) パネルディスカッション

(4) 閉会挨拶

【プレスリリース】http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/180904.html

【主催】東海農政局・公益財団法人中部圏社会経済研究所

【参加申込】定員200名、申し込み期限10月5日。

上記のプレスリリースのURLから参加申込書を取り出して下記へお送りください。

送付先：公益財団法人中部圏社会経済研究所宛

FAX 番号：052-212-8782

☆平成30年度「食品安全セミナー(10月)」

【開催日時】平成30年10月30日(火) 13時30分～16時

【場所】東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部長 吉田竹志財 氏

「GAPについて」

講師：東海農政局 生産部 生産技術環境課長 長友秀昌 氏

第二部 14:50～15:50

「HACCPについて」

講師：東海北陸厚生局 職員

【開催要領】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181009.html>

【参加】 参加費無料、定員 先着 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記開催要領の URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】 消費・安全部 消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内にございます。

.....

☆平成30年度野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」

【開催日時】 平成30年10月29日(月)13時～30日(火)12時

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/08/082198.html>

【内容】 下記の開催要領参照

http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20181029_kaisai-youryou.pdf

【主催】 農研機構野菜花き研究部門、一般社団法人日本種苗協会

【参集範囲】

- 1) 国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者
- 2) 日本種苗協会 関係者
- 3) 国および地方自治体 野菜行政・普及担当者
- 4) その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加申込】 上記の「詳細」からお申込み下さい。10月12日締切。

.....

☆農研機構野菜花き研究部門野菜研究安濃拠点一般公開

【開催日時】 平成30年11月3日（土）10：00～15：00

（14：30受付終了）

【開催場所】 三重県津市安濃町草生360

【開催案内】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/083015.html>

【内容】

各研究領域等の展示

実演・体験・セミナー

ミニセミナー (1) コンピュータとロボットで野菜をたくさん作ろう

(2) 花を使った脳トレ 簡単フラワーアレンジメント

その他

.....

☆愛知県農業総合試験場公開デー

【開催日時】平成30年11月3日(土) 9:00～14:00

【開催場所】愛知県農合総合試験場(長久手市岩作三ヶ峰1-1)

【内容】

講演 13時15分～13時45分(開場:12:45) 中央研究棟 研修ホール
「名古屋コーチン 美味しさの秘密」 畜産研究部長 木野勝敏 氏

展示・相談等

ワークショップ(事前申し込み優先、無料)

- (1) ブロッコリーからDNAを取りだそう!
- (2) 土の不思議(土の機能を知る簡単な実験)
- (3) きみもぼくも鑑別師・ひなの♂♀を外観で見分けよう!
- (4) バターを作ろう!

研究施設見学(事前申し込み優先、無料)

試食アンケート(事前申し込み不要、無料)

【開催案内】キーワード「愛知県農業総合試験場 公開デー」で開催案内をご覧ください。

☆平成30年度東海地域マッチングフォーラム

～土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～

【開催日時】平成30年11月15日(木) 10:00～17:15

【開催場所】名古屋国際センター(別棟ホール)(名古屋市中村区那古野1-47-1)

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/083035.html>

【内容】上記の「詳細」参照

第1部 「スマート農業の実現に向けて」

第2部 「土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減」

パネルディスカッション

ポスター展示

【主催】農林水産省大臣官房 技術政策課、農研機構中央農業研究センター

【対象範囲】生産者、生産者団体、行政・普及機関関係者、関連企業、試験研究機関関係者等

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みフォームを利用してお申込み下さい(11月5日締切)。定員180名

☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

【開催日時】平成30年11月16日(金) 13:30～16:30

【開催場所】アスト津4階 研修室A(三重県津市羽所町700番地)

近鉄、JR津駅から徒歩1分

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/082669.html>

【内容】上記の「詳細」参照

【主催】農研機構 生物機能利用研究部門

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みサイトを利用してお申込み下さい（11月12日
締切）。参加費無料

.....
☆静岡県農林技術研究所公開デー

【開催日時】平成30年11月17日（土）10:00～15:00

【開催案内チラシ】<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/info00088.html>

【内容】

公開セミナー 13:00～14:00（受付12:30～）資料館会議室

(1)おいしい！”葵美人” ～農林技術研究所開発のもち米～

水田農業生産技術科 外山主任研究員

(2)おいしいトマトの秘密

野菜生産技術科 田島主任研究員

(3)温室メロンのおいしさと機能性 ～GABAとは？～

加工技術科 豊泉主任研究員

研究成果の展示

温室ガイド&クイズラリー

【申込み】参加費無料、定員45名。お申込みは、上記の開催案内チラシの参加申込用紙
に必要事項をご記入の上、FAX又は電子メールでお申込み下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア2018

【開催日時】平成30年11月20日（火）～22日（木）10:00～17:00

【開催場所】東京ビッグサイト 西-1ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【開催概要】<http://agribiz-fair.jp/about.php>

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、
下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下
記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成30～31年度競争的研究資金等について

☆平成31年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (JST)

<http://www.jst.go.jp/global/koubo.html>

分野等：

1. 環境・エネルギー分野「地球規模の環境課題の解決に資する研究」
2. 環境・エネルギー分野「低炭素社会の実現に向けた先進的エネルギーシステムに関する研究」
3. 生物資源分野「生物資源の持続可能な生産と利用に資する研究」
4. 防災分野「持続可能な社会を支える防災・減災に関する研究」

公募期間：平成30年9月11日～11月12日

☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合 (ICT × ○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept : 概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

☆平成 31 年度環境研究総合推進費 (独立行政法人・環境再生保全機構)

<http://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/index.html>

分野等：統合領域、低炭素領域、資源循環領域、自然共生領域、安全確保領域

公募期間：平成30年9月27日～11月1日

.....
☆平成 31 年度 NEDO 先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100193.html

分野等：(1)省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム)

(2)新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム)

まず、RFI(本事業で取り組むべき研究開発内容についての情報収集)が行われ、提供された情報を参考の上、対象となる研究課題が設定され公募が行われます。

公募期間：平成 31 年 2 月上旬～4 月中旬、RIF の締切日 平成 30 年 11 月 30 日

.....
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○超多収穫米を利用した高付加価値化加工用米粉原料の生産体系の確立

本研究成果は、農研機構次世代作物開発研究センターが代表機関となり実施された農食研究推進事業 (実用技術開発ステージ) によるものです。GABA、食物繊維等を多く含む発芽玄米全粒粉の製造に適した超多収米を効率的に供給し、消費者が受容しやすい美味しい米粉加工品を開発し、商品化するための研究が行われました。その成果として、(1)低コスト生産を可能とする超多収・発芽処理好適品種が選定され (高アミロース米：和 3210 号、中アミロース米：オオナリ、低アミロース米：和 3205 号)、生産者が品質と収量を確保できる超多収米の栽培技術が確立され、マニュアル化されました。(2)発芽玄米の量産が可能な発芽処理技術が確立され、発芽玄米全粒粉の製造工程が構築されました。(3)発芽玄米処理をした玄米全粒粉は、GABA、フェルラ酸、食物繊維が、未処理と比べて著しく増加していました。(4)発芽玄米全粒粉を利用したグルテン添加米粉パン、煎餅、パンケーキ、和菓子、麺製造のための加工用米粉原料を開発されました。(農林水産省「研究紹介 2018」から引用)

・農林水産省・研究紹介 2018：当研究会にご照会下さい (本メールマガジンの末尾の E-mail 宛)。

☆園芸関係（野菜・花き）

○臭いや黄変が生じないダイコン品種の育成とその普及に向けた安定生産技術・食品開発

本研究成果は、農研機構・野菜花き研究部門が研究代表機関となり実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。大根加工品では、大根臭や黄変の発生により品質低下にかかわる問題が生じることがあります。そこで、本研究の成果として、(1)これを解決するために、その原因となる成分であるグルコラファサチンを含まないダイコン F1 品種を育成しました（「悠白」及び「サラホワイト」）。(2)「悠白」はたくあん漬けをはじめとする漬物原料用に、「サラホワイト」は大根下ろし、サラダ等の生食用、切り干し大根等の原料用に適しています。(3)両品種の安定栽培技術を確立し、栽培と利用に関するマニュアルを作成しました。（農林水産省「研究紹介 2018」から引用）。

・農林水産省 HP：農食研究推進事業採択課題の内容

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26092c_gaiyou.pdf

○華麗な「かがり弁」の花びらを有する輪ぎく新品種の開発

愛知県は、愛知県農業総合試験場の 10 大成果を 2017 年 11 月に記者発表しましたが、その中で「華麗な花びら『かがり弁』の輪ぎく新品種の開発」を第 1 位に挙げています。本品種の開発は、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構と共同開発されました。イオンビームを照射することによって、輪ぎくの花びらの色や形に特徴を有する新品種が開発され、2017 年 11 月に品種登録の出願がなされました。本品種は、新奇性が高く、祝い事やフラワーアレンジメントなどの分野で新たな需要開拓が期待されています。

・愛知県記者発表：キーワード「愛知県農業総合試験場→研究の成果→記者発表→29・11」で検索して下さい。

○生薬「芍薬」生産を目的とした切り花兼用芍薬品種の選定と栽培条件

高齢化社会の進展に伴い、需要が増大すると予想される漢方薬原料の安定確保に向けた国内生産体制の構築が求められています。三重県農業研究所は、高需要生薬であるシヤクヤクを北勢地域黒ボク地帯を主産地とする植木類の代替品目候補に位置づけ、生薬有効成分の含有率の高い切り花兼用品種とその最適栽培条件を明らかにしました。

・三重農研成果情報（普及成果）：<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000715729.pdf>

・三重農研・成果情報：<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000715746.pdf>

☆林業関係

○西南日本に適した木材強度の高い新たな造林用樹種・系統の選定及び改良指針の策定

本研究成果は、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所が代表機関となって実施された農食研究推進事業（発展融合ステージ）によるものです。西南日本では強度

と成長ともに優れた樹種がなく輸入材に依存している状況にあります。そこで、本研究において、中国及び台湾原産コウヨウザンに着目し、国内に生育するコウヨウザンの遺伝的多様性の評価と優良系統の選抜、木材特性の評価等を行いました。その成果として、(1)コウヨウザンの我が国における生育適地は照葉樹林帯であり、生育適地における成長は、同一地域のスギの約2倍であることを明らかにしました。(2)壮齢林の材料で試作した平角材で材質を比較すると、曲げヤング係数でE110相当のものが多く、曲げ強度においてスギを上回り、ヒノキと同等の性能を示しました。(3)DNA分析により、国内で生育するコウヨウザンは中国南部由来、中国東部由来及び台湾由来の3つに分類されました。(4)優良クローンを選定すると共に、種子及び挿し木による増殖法を明らかにしました。(農林水産省「研究紹介2018」から引用)

・農林水産省 HP：農食研究推進事業採択課題の内容

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27003b_gaiyou.pdf

・近藤(2017)コウヨウザン研究の現状. 森林遺伝育種 第6巻 143-147.

http://www.fgtb.jp/pdf/2017/10m/FGTB_V6N4_feature_article3.pdf

.....

編集後記

9月に台風21号で大きな被害を受けたばかりですが、伊勢湾台風並みの高潮が心配された台風24号は、大きな被害を各地に残して日本列島を横断し、三陸沖から太平洋に抜けて北海道沖で温帯低気圧に変わりました。台風24号が最接近した時刻と名古屋港の満潮時刻が少しずれて、幸いにも記録的な高潮には至らなかったと聞きました。

さて、流通現場でのさまざまな動きについて述べられている、伊藤元重著「流通大変動～現場から見えてくる日本経済～」(NHK出版新書：2014年初版発行)を読みました。日本経済の理解には、グローバル化の進展、少子高齢化の影響などの大きな流れの中で、さまざまな産業や企業、そして消費者がどのように動いているかを知ることが重要であり、血の通った人間の動きを見ないでは本当の経済は分からないのかもしれないと筆者は述べています。筆者により多くの現場での話が語られる中で、コンビニエンスストアの話があります。いまやコンビニを抜きにしては日本の流通業を語れないほど日本はコンビニ大国です。1974年にアメリカのコンビニエンスストアであるセブン-イレブンを、イトーヨーカ堂が日本に導入しました。日本のコンビニの重要な特徴は、フランチャイズ制度の積極的な活用であり、コンビニ本部にとってみれば、コンビニの立地を確保して店をつくる資本コストの節約が可能となります。もう一つの特徴は、POS情報技術のフル活用と述べています。それは効率的な物流や販売を実現して、それほどのコストをかけずに効率的な店舗運営を実現しており、この情報武装はPontaやTポイントを利用した顧客情報の管理に繋がっていきます。日本のコンビニの品揃えの特徴は、おにぎりやおでん、弁当のような中食(なかしょく)を重視し、家やオフィスですぐに食べることができ、食の変化の中で急速に拡大した市場を見事に捉えていることです。コンビニにとって中食は重要な商材であり、著者の思い当たったことに、日本社会の高齢化をあげています。高齢者が簡単に食事できるような弁当や総菜の品揃えを増やすことはますます必要となるだろうと述べています。

また、農業の六次産業化について、流通の側からの見方を紹介しています。農家は農作業をするだけ。JA や青果市場が流通を行う。外食産業、スーパー、食品加工企業は農業に口を出さない。こうした垂直分業から、いろいろな動きが出てきていることを例にあげています。農業者の中にも食品加工やインターネット販売などで直接消費者に売ることに活路を見出そうとする例や、大手スーパーが自ら農業活動に関与する例などが挙げられています。

本書を読んで、日常生活で体験する様々な流通現場の動きには、実際に肌で感じられるものが多くあり、刺激に充ちたビジネス材料でもあることを教えられました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>